



善永寺報 報恩講版

みのりの秋も深まり報恩講の季節となりました。報恩講は浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事です。

宗祖親鸞聖人が弘長二(一二六二)年十一月二十八日に亡くなられましたが、この日を今日の暦に換算すると一月十六日になります。京都の本願寺では一月九日から十六日まで、宗祖のご恩に感謝する「ご正忌報恩講」が勤まります。浄土真宗の各寺院や門徒は、一月は本山にお参りするのので、それ以前に「お取り越し」といって、それぞれに報恩講をおつとめ致します。

二〇一二年一月に親鸞聖人の七五〇回忌をむかえるにあたり善永寺では昨年の十一月二十三日に報恩講に合わせ七五〇回大遠忌法要をお勤めいたしました。今年はいつもの報恩講としておつとめいたします。善永寺の報恩講では他の法要と違

つた御莊嚴(お飾り)や、行事があります。

初夜勤行 午後四時より本堂にて初夜礼讃をおつとめします。このお経は親鸞聖人の頃から伝えられた節で、当時の歌謡の曲といわれています。また初夜勤行に引き続き「御伝鈔」の拝読をいたします。またいつもと違い本堂前には幔幕

報恩講法要

を張り、本堂内の左余間には、四幅の「親鸞聖人御絵伝」を奉懸します。二三日には法要前に「おとき(齋)」の接待をします。これは古くから門徒が共に同じお膳を囲み、信心を語り合う場として、各地で取り入れられていたことです。是非法要前ですが、おときを召し上がりながら近くの方と語り合っていただきたいと思

います。報恩講は当寺の一番大事な法要ですから是非みなさまお参りください。お参りの際は門徒式章、御念珠をお忘れなく。

○報恩講法要

日時 平成二十三年十一月二三日(水)

勤労感謝の日

午前十一時より おとき(軽食)
正午 より 報恩講法要

奉讃大師作法
御俗姓拝読

ひきつづき 御法話

麻布組 善光寺 櫻井大雄師

二十二日(火) 午前十時半 幼稚園児報恩講

二十六日(土) 午後五時 スカウト報恩講

二十二日(火) 午後四時 初夜勤行
(初夜礼讃) 御伝鈔上巻拝読

二十二日より二日間、午前七時の晨朝法要は正信偈行譜です。



親鸞聖人三九歳の真影 善永寺蔵



報恩講について(解説)

報恩講のおこり

浄土真宗の報恩講のはじまりは、親鸞聖人が往生されてから、師法然上人のご命日に「二十五日のお念仏」をおつとめされていたものを、「毎月二十八日」と、親鸞聖人の命日に改められた念仏の集会がおこりとうけとられました。

第三代覚如上人は、永仁二年(一二九四)の冬、親鸞聖人の三十三回忌を迎えるにあたって、報恩謝徳のために『報恩講式』を作られ、これ以来、親鸞聖人のご命日におつとめする法要を「報恩講」と呼ぶようになりました。続いて翌年、聖人御一代を絵巻形式の絵図と詞書であらわされた「善信聖人絵」(親鸞伝絵)を作られ、現代もこれが基礎となって、御絵伝は余間に、また「御伝鈔」を拝読するのが報恩講のならわしとなっています。

御伝鈔と御絵伝



覚如上人が作られた「善信聖人絵」は、詞書の文章と絵とを交互に配した絵巻形式の伝記ですが、その後、増補改訂されて題名も「本願寺聖人親鸞伝

絵」となりました。

それがいつの頃からか、聖人のご生涯を多くのご門徒の方が拝見できるようにと、絵巻の文章と絵を別々に分け、今の御伝鈔と御絵伝と呼ばれている形式になりました。これより聖人のご一生の物語が報恩講に拝読され、また余間に御絵伝をお掛けするようになりました。

御伝鈔は上下二巻からなり、御絵伝は四幅本が用いられ、画面の下から上へ、また右から左へと拝見するのが順序となっています。

善永寺の「御絵伝」は元文五年(一七四〇)本願寺より下賜されたものといわれています。

築地本願寺の報恩講

築地本願寺では十一月十四日から十六日まで報恩講法要がお勤めされます。こちらへも是非お参り下さい。

ご本山の報恩講

ご正忌報恩講と呼ばれ、一月九日から十六日まで西本願寺の総御堂でおつとめになります。

○常例法座(毎月第二日曜午後三時)

十二月は、十一日に常例法座として涅槃会の法要とお話しをします。

○おはなし会

「おはなし会」(絵本の読み聞かせ)を開催します。読書の会・JRAC 首都



圏支部の皆さんにおいでいただき善永寺の本堂で行います。日時 十一月三日と十二月二三日午後二時半より四時までどうぞみなさんおい

でください。

○初御座・門信徒新年会

日時 平成二十四年一月八日(日)

午後一時(詳細は後報)

○特別展「法然と親鸞ゆかりの名宝」

法然上人八〇〇回親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を記念して、現在上野の国立博物館で開催されています。是非この機会におでかけください。

日時 平成二十三年十二月四日まで

場所 上野公園内 東京国立博物館

平成館

「善永寺報」報恩講版

発行 浄土真宗本願寺派善永寺

住職 高輪真澄

東京都大田区萩中一十一-二十四

〒144-0047

電話 〇三-三七三九-五六四一

FAX 〇三-三七三九-五六四〇

<http://www.zenei.jp/>

E-Mail: takanawa@zenei.jp